

令和7年度 江戸川区立小松川第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	からだも心も健康な子ども ○よく考え工夫する子 ○思いやりのある子 ○力を合わせやりとげる子		目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○みんなの笑顔があふれる学校 ○探究欲、交流欲、挑戦欲のある児童 ○児童と共に常に学び続け変わり続けることのできる柔軟な教師
前年度までの 本校の現状	成果	1 児童の運動意欲調査の肯定的意見が目標を上回った（目標80％ 結果90％）。 2 児童の学校生活満足度調査の肯定的意見が目標を上回った（目標80％ 結果91％）。 3 保護者に対する授業公開、教育活動情報発信の肯定的意見が目標を上回った（目標80％ 結果86％）。 4 小中連携により進学に関心あると回答する第6学年児童の割合が目標を上回った（目標80％ 結果81％）。	課題	1 授業改善、補修指導の充実 東京ベーシック・ドリル（3年、6年算数）の平均正答率60％、全国学力・学習状況調査C層、D層の児童割合が50％ 2 不登校児童 令和6年度末報告児童31人（児童数に対する割合5％） 3 いじめ認知件数 令和6年度末報告数89件

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度			「中間」 自己（学校）評価（A～D）		「中間」 学校関係者評価（A～D）		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた 改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント		
学力 の 向上	○授業力の向上	・校内研究及びOJT研修の充実 ・毎日授業参観の実施 ・他校授業実践の参観 ・ICT機器及び対話を取り入れた授業実践の日常化	・年4回の研究授業の実施 ・全教員が学期1回の相互授業観戦 ・全教員が年1回以上校外の授業参観 ・全教員が毎日1回はICT機器活用、対話を取り入れた授業実践	80%		B	・1回は実施済、3回は計画済み ・実指率は8割、学期1回は進捗に実施 ・全教員実施、2学期以降は計画、参観後の還元研究等を通じて、自己の授業力向上につなげる ・毎日実施と回答した教員は64％、2学期以降は毎日実施を徹底する	B	・どのような力を事に向上させるのが具体的な取組の提示を要したい。学力とはどのような学力かで、何の資料で、どのような研究取組をしているのか等が知りたい ・年4回の研究授業に、学校評議員が参加できるようにしてほしい					「達成度」及び「評価」 A基準：9割以上達成 B基準：7割～9割未満達成 C基準：5割～7割未満達成 D基準：5割未満の達成 予め設定した基準で評価すること。	
	○学習習慣の定着	・家庭学習の取組の充実 ・放課後学習教室の強化	・保護者肯定的評価90％以上 ・放課後学習教室参加児童全員、自身の学力向上肯定100％ ・学習意欲向上児童90％以上	80%		B	・肯定的評価68％ ・84％が自力解決ができるようになったと回答した ・80％意欲高まっていると回答した	B	・当該児童が、自身の学力向上を肯定しているのは素晴らしい ・担任のあたたかな取組が有効である						
	○読書科の更なる充実	・読書科における探究的な学習の充実	・高学年児童の探究的な学習コンクール参加100％ ・前年度より読書量が増加した児童100％	80%		B	・1月に高学年児童全員学習コンクール参加予定、本年度に全参加の相場でできるような事 ・前年度より読書量増加76％（2年生以上）、年度末までに読書量増加した児童が期待できる	B	・通読の本校の読書科の研究費助費等を希望すること ・読書科の取組により、児童の読書力が高めることが重要である						
体力 の 向上	○体力の向上	・年3回なわとび週間実施 ・体育科授業の質の向上 ・運動習慣向上	・短縄の習得枚、回数等前年度比より増 ・体力測定で全学年、全項目全国平均より上 ・週5日、30分以上運動する児童90％	60%		C	・短縄、回数増86％、年度末までに2回のなわとび週間により目標達成 ・「上級こし」1項目のみ全学年平均差、評価のある項目に比べる取組が期待したい ・運動する児童77％、友達作り、外遊びを増やす	B	・ゲームに限らず、基本の運動に機能的に取り組ませることが必要ではないか ・全校で縄跳びに取組むことは大変よい、今後も継続してほしい						
	○健康教育の充実	・全学年保健指導による健康教育の実施 ・学校保健委員会等での保護者に向けた啓発	・3、4年歯科指導による未処置歯のある児童80％減 ・保護者の健康教育へ肯定的評価90％以上	75%		B	・年2回実施済み、9月以降も実施予定 ・松風より児童21名、9月、9月反し来りをする、3・4年生対象に歯科指導9月に実施予定 ・検診回数75％、学校保健委員会の実施によりの啓発	B	・学校として歯科検診方法が真実、結果は保護者の方までまで ・HPIに連携づくりに関する指導の全体計画をすすめる						
	○食育指導の充実	・栄養士による食の重要性や安全性の指導実施 ・給食試食会等での保護者に向けた啓発	・年1回以上全学年で食育指導の実施 ・保護者の食育へ肯定的評価90％以上	75%		B	・1・25学年で実施、3・46学年は9月以降実施予定 ・肯定的評価56％、11月に試食会を実施、褒め等による啓発	B	・HPIの全体計画が的確に示されている ・全学年の食育の指導で児童が正しい知識や食習慣を身に付けることを期待したい						
教育への参画の促進	○特別支援教育の充実	・校内委員会及び校内研修の定期的な実施 ・SCやSSW等との連携強化	・特別な支援を必要とする児童への対応100％ ・SCやSSWとの連携により、児童の行動改善が80％以上	90%		A	・教員による評価100％、校内委員会は月1回以上実施 ・教員による児童の行動改善93％、目標達成 ・今後関係し、保護者にも調査予定	A	・児童の特性やニーズを的確に把握、支援計画を作成し、円滑な個別支援がされることを期待する						
	○エンカレッジルームの活用促進	・児童及び保護者の本事業に対する理解促進 ・教員とエンカレッジサポーターとの連携強化	・利用児童、保護者の肯定的評価90％以上	60%		C	・調査内容に不備あり、今後利用者に限定した調査を実施 ・全校への周知を実施（学校により・新1年保護者会）	B	・担任とエンカレッジルームスタッフとの連携強化を続けてほしい						
	○外国籍児童に対する理解促進及び積極的交流	・校長及び教職員による異文化理解の指導充実	・海外の人との交流に対し肯定的評価90％以上	80%		B	・交流が数人と回答した児童64％、期間内研修「授業以外で」となっているため、機会が限られた可能性大、異文化交流の場を設けて、交流が促進し異文化理解の促進に対する希望の評価の促進を促すこととする	B	・本校の特色を生かしながら、今後も異文化理解の指導を充実してほしい						
不登校・欠い来いじめ対応の	○不登校、登校渋り等への取組強化	・関係児童に関わる全教員が、登校渋りや不登校児童の状況を理解 ・月1回の不登校対策委員会の実施 ・L-gateの日常的活用	・新規不登校の発生をゼロ ・登校渋りを理由とする欠席児童前年度より10％減	60%		C	・新規不登校発生1学級（1名） ・不登校児童1名復帰 ・不登校返校率合計月1回実施済 ・登校渋りを理由とする欠席は前年度より45％減	B	・新規不登校発生は未達成であるが、登校渋り欠席率削減率は大きく上昇していることは評価できる ・不登校児童が教室に戻ることができる手立てを構築してほしい						
	○いじめの未然防止、早期発見、早期解決	・年3回のいじめアンケート及び対策委員会の実施 ・L-gateの日常的活用	・いじめ解消率90％以上 ・児童の学校生活満足度95％以上	80%		B	・いじめ解消率83％ ・児童の学校生活満足度86％	B	・解消率の定義が難しいが、100％を目指してほしい ・繰り返し学校全体の取組を推進することが重要である						
	○教員の対応力・連携力向上	・年1回外部有識者によるいじめ対応研修実施 ・生活指導夕食及び校内OJT研修で全校共通取組の理解	・自身の対応力、連携力についての自己評価、全教員年度当初より向上	80%		B	・年1回の研修会は実施済み ・高年より上と回答した教員73％、年度末までに100％となるよう研修等実施	B	・中間点で対目標に対し、100％進捗している ・研修により対応力への自信を高めてほしい						
学校へ参画の促進	○学校ホームページの定期的な更新	・適時の情報発信により、保護者や地域等関係者への情報提供充実	・毎日の更新 ・各学年や行事の取組事後1週間以内配信	60%		C	・更新できたと回答した教員70％、年度末までに100％となるよう、担当者改善案指示	B	・HPI更新は関係に実施してはうまくいっていないと感じ ・地域や関係者に学校の取組を周知できるとの期待について、全教員で共有確認してほしい						
	○学校関係者評価の充実	・学校評議員委員会での双方の意見交換の実施	・年3回学校評議員委員会において、全項目前年度比評価維持、向上	80%		B	・6月、9月の2回実施、1月は今年度の報告、次年度の評価項目の提案	A	・学校評議員が経験できていない取組については、補足説明が必要である						
	○異学年交流活動の拡大、充実	・月1回の異学年交流活動及び行事や集会等での異学年交流の場拡大、充実	・児童による自治的活動の肯定的評価90％以上 ・他学年との交流に積極的な児童95％以上 ・他学年に友達がいる児童95％以上	90%		A	・異学年交流の肯定的評価88％ ・他学年の児童との交流等肯定的評価88％ ・他学年の友達について知りた	A	・長年にわたり取り組んでいるため、大きな特色と考える。思いやり等がどう育まれているのかの検証については						
教育の特色ある展開	○キャリア教育の充実	・全学年キャリア教育の視点を生かした学校・学年経営を充実 ・専科教員によるキャリア教育の視点を生かした授業及び教室環境の充実	・「キャリア・パスポート」を生かしたキャリア教育の実施100％ ・専科教員によるキャリア教育の視点を生かした授業及び教室環境の充実 ・担当教科に合ったキャリア教育の実践100％	80%		B	・89％の担任が実施済み ・22％の専科教員が実施済み ・全教員にキャリア教育の価値を認識させる啓発活動や具体的取組の提案を校長が実施	B	・今後キャリア教育を教育課程にどう位置付けていくかを注視したい、成果が生み出ているかは現時点では評価できない						
	○外部機関との連携強化、外部人材活用の充実	・保護者や地域の大学、企業、連携中学校等外部機関との連携強化、及び人材の積極的な活用	・全学年、年1回以上、外部機関との交流を実施	90%		A	・全学年7月までに1回は実施、今後も多くの外部人材活用を予定、実施後の児童の満足度や教育効果検証を行う	A	・どのような外部機関と、どのような目的で、どんな力を育てたいのか説明が必要である						